

令和6年度肝炎対策懇話会 会議概要

1 日時

令和7年2月5日（水）午後6時30分から午後7時30分まで

2 場所

県防災庁舎2階共用会議室2-1（プレスルーム）

3 出席者

（委員）

永田賢治委員、蓮池悟委員、赤須郁太郎委員、弘野修一委員、園田千草委員、山鹿明委員、丸尾豪司委員

（事務局）

健康増進課がん・疾病対策担当職員

4 会議概要

報告事項

（1）令和6年度宮崎県肝炎対策事業実績について

（資料1により、事務局から実績報告）

- 委員より、B型C型ともに陽性率は年々減少しており、B型で0.7%程度、C型で0.2%程度となっているが、若年層の陽性率は高い旨発言があった

（2）協会けんぽの肝炎ウイルス検査の取組について

（資料2により、丸尾委員から報告）

- 委員より、生活習慣病予防健診の一般健診の際に、事前予約なしで肝炎ウイルス検査を受けることができるかとの問いがあり、受けることができる旨の回答があった
- 委員より、生活習慣病予防健診対象者約19万人に対し、受診者数が約13万人であったことに対して、受診率が70%程度であることは非常に高く、受診率が高い中での肝炎ウイルス検査の実施は有効であるとの発言があった

（3）宮崎大学医学部附属病院肝疾患センターにおける肝炎対策研究事業

（資料3により、永田委員から説明）

- 委員より、都道府県別に見た肝がん死亡率の推移で本県がワースト上位であることについて、実際に肝がんで亡くなる人は多いのかとの問いがあり、全国的に肝臓がんで亡くなる人は少なくなっているが、本県も一定数はいる旨の回答があった
- 委員より、脂肪肝などのウイルス性肝疾患以外に起因する肝がん患者が多くなっていることを実感しているとの発言があった

その他

- 委員より以下のような発言があった。
 - ・ 肝炎ウイルス検査をしてもらうことが重要であるため、広報活動や肝炎医療コーディネーターを増やす取組を継続し、肝炎を身近に感じてもらうことが大切
 - ・ 肝炎患者の講話は肝炎を知ってもらいいい機会であるため、いろいろなイベントで講話を取り入れた取組をしてほしい